

謹んで、阿弥陀如来の御前に申し上げます。

今ここに、住職継承奉告法要を厳修するにあたり、私どもは、この寺に連綿として受け継がれてきた念仏の歩みに思いをいたし、深くその意義を尋ねるものがあります。

そもそも当寺は、大正六年に市野義道によって設立されました。その後、義孝、誠順へと、その法灯が受け継がれてまいりました。

それぞれの時代において、同行同朋とともに仏法を聞き、念仏の教えに出遇う歩みが重ねられてきました。

このお寺は、真宗大谷派の寺院であり、阿弥陀如来の本願を仰ぎ、親鸞聖人の教えを聞き、互いに人生の苦悩や喜びを抱えながら、共に仏法を聴聞する「聞法の道場」として、その歩みを重ねてきたのであります。

今、住職継承の時にあたり、私どもは先人より受け継いだものの大きさを思い、また、その教えを次の世代へといかに相続していくのかを、あらためて問われていることでもあります。

住職が代わることは、単に寺の責任者が交代することではありません。

これまで多くの方々によって育まれてきた聞法の間を受け継ぎ、ご門徒の皆さまとともに仏法を聞き、念仏の教えに生きる歩みを、さらに次の世代へと手渡していく機縁であると受け止めております。

願わくは、これよりも当寺が、誰もが気軽に集い、互いに語らい、そして共に仏法を聴聞することのできる寺として歩んでまいりますように。

老いも若きも、長くこの寺にご縁のある方も、新たにこの寺にご縁を結ばれる方も、ここに集い、ともに阿弥陀如来の本願を聞き、親鸞聖人の教えに耳を傾ける。

そのような聞法の道場として、この寺の歩みがこれからも受け継がれていくことを切に願うものであります。

ここに、これまで長きにわたって念仏の道場を護持し、聞法の歩みを重ねてこられた先人のご苦勞を偲び、その歩みを今に受け継ぐご縁に遇えたことを深く受け止め、新たな住職継承を奉告いたします。

願わくは、阿弥陀如来の本願力のもと、住職・僧侶と門徒がともに聞法の歩みを重ね、この寺が末永く念仏の声の聞こえる聞法の道場として相続されていかんことを。

令和八月九月十九日 道誠寺 住職 釈智行 敬って申す